

高齢者の服装の実態について

—台湾南部の分析—

邱魏 津 (台湾屏科大)

目的 台湾は医療衛生の進歩及び経済生活の改善に伴い、1996年行政院の人口統計資料に65歳以上の人口数は7.85%に達し高齢化社会の到来になられ、この急速に変化している高齢化社会の中で、国や地方政府の高齢化社会対策及び民間企業の老人福祉政策も進みつつあるが、アパレル産業の方は特に高齢者の服装に対しての関心は又又遠いようである。そこで本研究では、台湾南部地域のデパートや市場など衣服売り場の実態を把握し、また都市と農村の高齢者の中から、日常の着衣実態の様相や着装行動を調査し、分析、考察した。

方法 市場調査及び質問紙による聞き取り調査とカメラ撮影観察により実施した。①調査地域 嘉義、台南、高雄、屏東の4地域 ②期間 1997年9月から12月まで ③場所 各地域のデパート共10軒、市場8箇所、服飾専門店5軒、町村、老人ホーム1 ④対象 65歳以上の女性586名

結果 デパートや服飾専門店には大きいサイズコーナーはあるが、高齢者用の衣服を販売する店は少ないのが市場に対する不満の原因である。仕立てや手作りで衣服を求め、あるいは屋台の安い服で過ごす。都市の高齢者の方は鮮やかでおしゃれなスーツやワンピース姿で買い物に出かけるが、農村のほうはズボン姿のが多くて、とくに下の方は黒か紺色など地味なズボンをはく、上下の組み合わせはアンバランスでも構わなく、平気で買い物に出かけることがわかった。